



一九三五年
(昭和十年)



(花山天文臺)
月

I—太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出 (星座)	日没	日付	夜半の月齢	月出 (星座)	月没
日	時 分	時 分	日	日	時 分	時 分
1	5: 6 (かに)	7: 0	1	1.6	6: 35 (しゝ)	19: 4
6	5: 9	6: 55	2	2.6	7: 31 (六ぶぎ)	20: 15
11	5: 13	6: 50	3	3.6	8: 26 (しゝ)	20: 40
16	5: 17 (しゝ)	6: 45	4	4.6	9: 21 (をとめ)	21: 1
21	5: 21	6: 39	5	5.6	10: 18	21: 32
26	5: 25	6: 32	6	6.6	11: 16	22: 6
31	5: 28	6: 26	7	7.6	12: 16	22: 36
			8	8.6	13: 18 (てんびん)	23: 17
			9	9.6	14: 20 (さそり)	—
			10	10.6	15: 21 (へびつかひ)	0: 5
			11	11.6	16: 16 (いて)	0: 56
			12	12.6	17: 5	2: 7
			13	13.6	17: 47	3: 20
			14	14.6	18: 29 (やぎ)	4: 30
			15	15.6	19: 3 (みづかめ)	5: 46
			16	16.6	19: 37	6: 59
			17	17.6	20: 10 (うを)	8: 12
			18	18.6	20: 45	9: 23
			19	19.6	21: 24	10: 34
			20	20.6	22: 2 (ひつじ)	11: 43
			21	21.6	22: 48 (をうし)	12: 48
			22	22.6	23: 42	13: 48
			23	23.6	—	14: 42
			24	24.6	0: 34	15: 57
			25	25.6	1: 33 (ふたご)	16: 19
			26	26.6	2: 31	16: 54
			27	27.6	3: 28 (かに)	17: 26
			28	28.6	4: 24	17: 53
			29	0.0	5: 19 (しゝ)	18: 19
			30	1.0	6: 14	18: 43
			31	2.0	7: 8	19: 8

II—天象

日 時 分	天象
3, 0: 53	海(北 ^{5°35'})と月と合
3, 9: 41	金(北 ^{1°41'})と月と合
3, 13: —	金星最大光輝
7, 6: 43	火(北 ^{4°19'})と月と合
8, 2: 31	木(北 ^{5°59'})と月と合
8, 9: —	木星が東炬
9, 20: 37	アンタレスが掩蔽
10, 10: —	水星が外合
12, 3: —	天王星が停留
16, 3: —	金星が停留
16, 4: 38	土(南 ^{6°16'})と月と合
18, 2: —	金星が遠日點
20, 1: 46	天(南 ^{5°51'})と月と合
24, 15: —	水(北 ^{9'})と海と合
27, 3: —	水(北 ^{9°1'})と金と合
28, 8: —	火(南 ^{2°12'})と木と合
30, 9: 4	海(北 ^{5°34'})と月と合
30, 13: 33	金(南 ^{4°})と月と合
31, 6: 30	水(北 ^{5°28'})と月と合
31, 13: —	土星が對衝

上 弦 8月 7日 22時 23分
下 弦 8月 21日 12時 17分

満 月 8月 14日 21時 43分
新 月 8月 29日 10時 0分

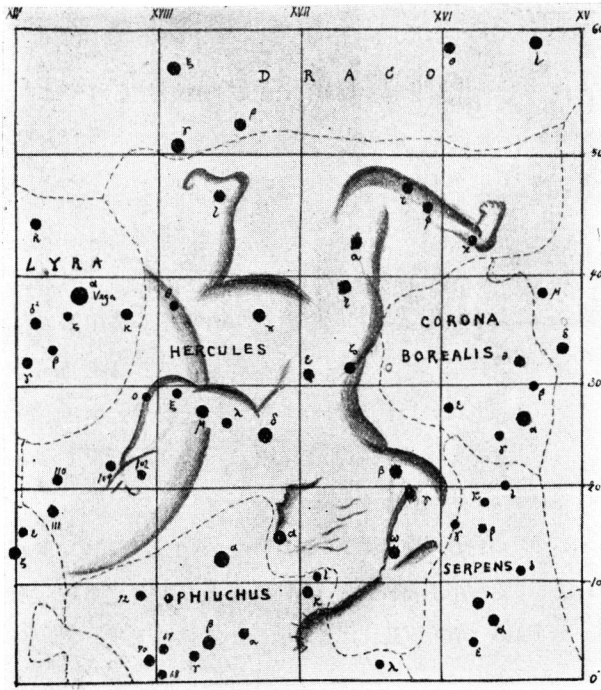
主な流星群

日付	赤経	赤緯
8日	42°	+57°
16日	52°	+58°
8月—9月	346°	0°
6月—8月	310°	+61°
中旬—下旬	290°	+53°

附近の星

星名	座	性質
ペルセウス座	座	速痕}顯著
ペルセウス座	座	
魚座	座	緩速
ケフェウス座	座	
白鳥座	座	速

— 夜 の 八 月 祭 —



ハイクュリズはもうすっかり自分の運命の末路に坐つて居たのです。イ
 1 夕山の其夜は幾多の巨星が男泣きをしました。單なる戦利品として扱つた
 處女アイオルの爲の代價があゝの危険な十二の難業を見事に果し得たハイク
 ユリズの男一匹なのです。此れは美しくも嚴肅な裁斷場なのです。靜に焚
 死堆の上に勇士は横はります。手を延ばせば乙女のハタへとなびくヌメギヌ
 の半夜です。何もかもが彼には何うやら汗ばんだ眞夏の夜の夢なのです。少
 くとも自分だけは特殊な生涯と運命を辿つて來た積りなのに。……………アイ
 オルの夜の暈が彼の冒険の最後の夏だつたのです。炬火が死の床に點ぜら
 れます。……………獨りの生命は如何な華麗に彩色せらるゝとも獨りの生命以
 上には拂はれ得ないのでせう。……………一つの生涯は一つのエゴイズムの闘
 争の記録に終始して居るのです。……………それが綜合、統制されない以上は、
 一つの焚火が而し今夜は餘り美しすぎるのです。